

長野市長を訪問

昨年10月に世界遺産暫定リスト提案書の長野市からの提出を求めて鷺澤正一長野市長を訪問。さらに、今年2月13日に提案書の再提出と暫定リスト追加選定に向けた推進体制の強化を求めて訪問しました。鷺澤長野市長からは登録の推進に向けて、まずは市内で提案書の作成委員会を確立し、暫定リストの追加選定に向けて体制を強化したいとの前向きな方針を示されたほか、暫定リスト選定後に市内に世界遺産推進室（仮称）を設置していきたいとの方向を示された。



世界遺産暫定一覧表 提案書作成ワーキンググループの発足

長野市教育委員会では世界遺産暫定リストの追加選考に向けて、今年の12月に提案書の再提出を行うため、調査研究を行うワーキンググループを発足した。善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査委員会の委員を対象地区の調査研究を行っている土本俊和・信州大学教授が座長となり「善光寺と門前町」といった観点から、善光寺の普遍的価値や世界的視野からみた門前町の独自性などについて検討が重ねられている。



トピックス

日本イコモス国内委員会維持会員に入会

すすめる会は、世界遺産の候補となる資産を審査する国際記念物遺跡会議（ICOMOS）の国内委員会の維持会員に入会しました。

土本俊和氏が専門委員に

新たに専門委員会に信州大学教授 工学博士、土本俊和氏が専門委員として着任されました。

土本氏は、平成16年度より長野市教育委員会によって発足した「善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査委員会」の副委員長も務めており、調査に多大な貢献をされており。

シンボルマークをホームページにて募集

当会の活動を広く周知する為のシンボルマークの募集をホームページにて開始いたしました。採用されたマークは、ポスター・チラシなどに活用される予定です。

伝建予定地区まちづくり相談窓口を開設

すすめる会では善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区における建物の改修や修理修復、建替えなどの相談の場を開設しました。相談の受付は善光寺事務局、相談者は当会専門委員の先生方をお願いいたしております。

推進会議に新委員選任

今回から新たなメンバーが加わりました。石川利江さん、小林玲子さん、塚田まゆりさんの3名です。これからの当会においての「新しい風」として頑張ってくださいと思います。また、小林竜太郎さんが幹事に加わりました。

2007年度事業計画

暫定リストへの登録に向けた活動の推進

- 暫定リスト提案書作成ワーキンググループへの支援・協力
- 調査委員会が行う仲見世等の建築物調査への支援・協力

※2007年度の調査委員会の活動予定
2007年4月～2007年7月 前年度より継続し仲見世等の調査（全調査完了予定）
2007年4月～2008年3月 調査報告のまとめ

一般市民への啓発活動

- メディアを使ったPR
- 調査報告のパネル展示会開催
- ニュースレターの発行
- ホームページの更新・充実化
- 懸垂幕・ポスター・パンフレットの作成・提出
- シンボルマークの公募
- シンポジウムの開催



推進会議メンバー（一部欠席 6/27撮影）

すすめる会会員一覧

すすめる会は、ご覧の会員の皆様方からの年会費によって活動しております。

朝日税理士法人	信州経済同友会	長野朝日放送	長野信用金庫	八十二文化財団
朝日病院	信州製袋	ながの観光コンベンションビューロー	長野青年会議所	福澤商店
植木商店	信防エディックス	長野北ロータリークラブ	長野設計協同組合	藤森建設工業
エーシーエ設計	信毎文化事業財団	長野ケーブルテレビ	長野通運	ペイックコーポレーション
FMぜんこうじ	鈴木土地	長野県経営者協会長野支部	長野都市経営研究所	北信土建
FM長野	炭平コーポレーション	長野県建設業協会長野支部	長野トヨタ自動車	ホテル国際21
エムケー精工	駿専・青木商店	長野県建築士事務所協会	長野トヨベツ	増田商会
おらが園	善光寺	長野県社会保険労務士会	長野西ロータリークラブ	松澤工業
笠原十兵衛薬局	善光寺木遣保存会	長野県信用組合	長野日産自動車	松代商工会議所
カシヨ	善光寺まちづくり会議	長野県信用農業協同組合連合会	長野東ロータリークラブ	松田産業
岸クリニック	損保ジャパン長野支店	長野県中小企業団体中央会	長野放送	マツヤ
北野建設	第一印刷	長野支部	長野ユネスコ協会	マルイチ産商
倉田博光会計事務所	第一建設工業長野支店	長野小売酒販組合	長野ロータリークラブ	萬佳亭
小池新聞店	第一法規	長野国際親善クラブ	中村建築研究所	ミヤテック
国際ソロブチミスト長野	泰和	長野市区長会	中山法律事務所	宮本忠長建築設計事務所
国際ソロブチミスト長野みすず	タカチホ	長野市設計協会	夏目	明和印刷
小川歯科医院	高野総本店	長野市電設業協会	日新電機製作所	元善町
西條被服	滝沢無線	長野市PTA連合会	日本通運長野支店	山口司法書士事務所
信濃毎日新聞社	長印	長野市文化芸術協議会	日本機材	山本写真機店
篠ノ井商工会議所	鶴賀病院	長野酒造協会	日本電設工業長野支社	八幡屋磯五郎
シューマート	テレビ信州	長野商工会議所	日本旅行長野支店	
信越定期自動車	電算	長野商店会連合会	野村證券長野支店	
信越放送	東邦商事	長野市連合商工会	八十二銀行	(50音順)

平成19年7月現在 ※表記等で間違いや訂正などございましたら事務局までご連絡下さい。

編集後記

シンボルマークの公募に象徴されるように、いよいよ世界遺産登録への運動も更に活気が出てきたと感じています。市民と行政と専門家の先生方によるコラボレーションがいつか実を結ぶ日を見えて、いや目標に活動させて頂きます。最後になりましたが、ニュースレターVol.6発行に際しまして執筆等にご協力頂いた方々、またサポートして頂いた方々すべてに深く感謝申し上げます。（事務局 山本博一）

善光寺を世界遺産に

Zenkoji Temple for World Heritage listing

Vol.6
2007.AUGUST

NEWS LETTER

善光寺の世界遺産登録をすすめる会 事務局 ■ 社団法人 長野青年会議所 内
Tel : 026-228-3260
http://www.sekaisan-zenkoji.com

世界遺産暫定リストの追加選定

文化庁では昨年末に世界遺産暫定リストの追加選定に向けて、地方公共団体から提案書を受け、全国から24件の応募があった。その中から今年1月に開かれた文化審議会世界遺産特別委員会において富士山などの4件が我が国の暫定リストとして追加選定され、その他は継続審査案件として次年度以降に追加選考されることとなった。特別委員会によると、「善光寺信仰は広く民衆に浸透し、善光寺を中心とする宗教空間の中に仲見世などの町並みが形成され、受け継がれた良好な景観は価値が高い」としながらも「日本の仲見世や門前町という観点から本資産の位置付けについて検討が必要」とし、善光寺境内の建造物だけでなく門前町である宿坊や仲見世についても資産の範囲を明確にする必要性が指摘された。

我が国の世界遺産

法隆寺、姫路城、古都・京都の文化財、白川郷・五箇山、原爆ドーム、厳島神社、古都・奈良の文化財、日光の社寺、琉球王国のグスク、熊野古道、白神山、屋久島、知床半島、石見銀山

暫定リスト

古都・鎌倉の社寺、彦根城、平泉の文化遺産
（追加選定されたもの）富岡製糸場、富士山、飛鳥藤原遺跡群、長崎キリスト教会群（自然遺産）小笠原諸島

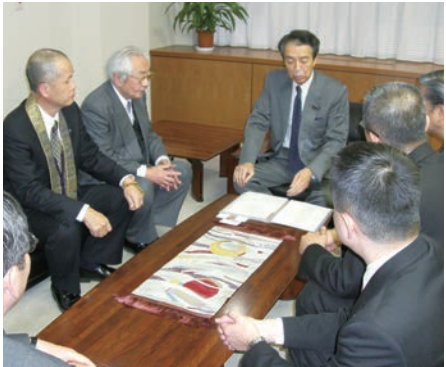
継続審議案件

青森県の縄文遺跡群（青森県）、ストーンサークル（秋田県）、出羽三山と最上川（山形県）、佐渡・鉱山（新潟県）、近世高岡の文化遺産（富山県）、霊峰白岩（石川県）、城下町・金沢（石川県）、若狭の社寺群（福井県）、善光寺（長野県）、松本城（長野県）、妻籠宿（長野県）、飛騨・高山の町並（岐阜県）、四国八十八霊場（四国4県）、三徳山（鳥取県）、萩城・城下町（山口県）、錦帯橋と岩国（山口県）、九州・山口近代化産業遺産群、宇佐・国東半島（大分県）、沖ノ島・宗像神社（福岡県）、竹富島・波照間島（沖縄県）

文部科学省、文化庁訪問

昨年12月22日、すすめる会の幹部が文部科学省および文化庁を訪問。大臣室、副大臣室、政務官室、文化庁長官室を訪ね、世界遺産暫定リストの追加選定に向けて「善光寺」のアピールを行った。伊吹文明文部科学大臣からは善光寺のもつ信仰の在り方や門前町の宗教的景観などについて関心を示されたほか、同席された小坂憲次前文科相からは「日本政府としてはユネスコの世界遺産登録基準が難しくなっている以上、

戦略的世界遺産登録をすすめて行かなくてはならない。そのために多様な暫定リストを選定すべき。またそれらが必ずしも世界遺産になるとは限らず、世界的な動向をみて順次登録をすすめていくべき」との見解も示された。また近藤信司文化庁長官からは「今回の提案書は信仰系のもものが多く、その中から選定されるには比較検討の中で優位性や独自性を示す必要がある」との見解を示された。



2006年度 活動の記録

善光寺の世界遺産登録をすすめる会専門委員懇談会を実施

世界遺産暫定一覧表追加選定提案書の提出を受けて当会の学識経験者によって構成される専門委員の先生方と「善光寺の暫定リスト選定に向けて」懇談を行った。

東京大学大学院教授 鈴木博之先生

昨年12月14日東京都内のホテルにて、鈴木博之先生をお招きして当会専門委員3先生方、善光寺事務総長と懇談を行った。鈴木先生からは世界遺産登録の近年の動向について登録が多様化、広域化、ネットワーク化していることなどについて触れられた。その上で今回の暫定リストの追加選定について信仰の対象や宗教建築が多いことを挙げられ、特徴として単体から複合化が図られていることを指摘された。善光寺については、他の候補物件と比較検討のなかで独自性や特異性をどのように顕在化するかが重要とし、同席された土本俊和信州大教授からは「宿坊についてもっと言及することで他の候補との特異性を示すことができるものと考えられる」との調査を踏まえた意見も出された。さらに鈴木先生からは「善光寺の特異性のなかに女人往生や庶民信仰も挙げられ、これらについて世界の類例を研究しておく必要がある」との助言を頂いた。



善光寺門前まち並みフォーラム開催

今年2月24日、長野市教育委員会主催、すすめる会共催による「善光寺門前まち並みフォーラム」がTOiGO長野市生涯学習センターにて開催された。合わせて善光寺周辺建物調査パネル展も行われ善光寺周辺地区の宿坊の実測調査された成果が公開展示されたフォーラムでは善光寺周辺伝統的建造物群保存予定地区調査委員会の調査報告を中心に長岡造形大学名誉教授宮澤智士および信州大学教授土本俊和先生の講演が行われた。

高野山創造学「第1回世界遺産フォーラムin高野山」に参加

今年1月26日、地域総合整備財団の助成事業による「世界遺産フォーラム」が和歌山県高野町の高野山大学にて開催され、当会事務局から数名が参加した。このフォーラムでは東洋文化研究家のアレックス・カー氏が「美しき日本」の残像と題して基調講演を行った。また文化審議会世界遺産特別委員会の委員でもあり、世界遺産を審査する国際機関イコモス前副会長、東京大学教授の西村幸夫先生が「世界遺産検証世界遺産の意味と今後の発展の方向」と題して基調講演を行った。さらにパネルディスカッションでは法政大学教授五十嵐敬喜氏をコーディネーターにパネラーとして全国各地の世界遺産に登録された地域や世界遺産登録を目指す地域の代表者らが参加し、それぞれの立場から文化遺産を通じた地域づくりの現状など



東京大学生産技術研究所 藤森照信先生

今年の4月24日善光寺宿坊にて、藤森照信先生をお招きして当会専門委員3先生に加え、提案書作成ワーキンググループおよび長野市教育委員会を交えた座談形式の会合を行った。藤森先生からは「日本の世界遺産登録の第一陣は終わった。第二陣を選定する段階に入った。法隆寺など第一陣の登録は必然性があった。第二陣の選定にあたっては文化庁に文化財保護の領域や概念を拡げたいといった考えがある。よって国宝や重要文化財といった単体から重伝建や景観保全など現状の文化財保護制度以上の取り組みが必要」とし、その点において「善光寺の場合、宿坊を中心とした重伝健選定に向けた調査が進行していることは有利である」として、調査報告について高い関心を示された。その上で宿坊や仲見世、大門などを含めて「善光寺と門前町」をその対象とし、その範囲をどこまでいれるかは慎重に検討してほしいとの助言を頂いた。また比較検討のうえ門前町として参道の長さや軸性、勾配、背後の山並みなど独自性のある部分を強調するように指導されたほか、門前町のような都市形態は日本に多く観られる特徴で世界的にあまり観られないのではないかとの考察を示された。



について意見交換がなされた。フォーラムの参加者は全国の世界遺産運動を進める地域などを中心に450名が参加した。



善光寺の世界遺産登録に向けて

第5回

善光寺とその宿坊群の普遍的価値を「世界語」で発信しよう

善光寺の世界遺産登録をすすめる会
専門委員
宮澤智士

最近の情報

世界遺産登録に関して、昨年から本年(2006-07)にかけて、従来といくつかの点で大きく変わってきた。ここでは善光寺に直接関係する次の2点をとりあげる。

①文化庁が世界文化遺産の暫定リスト登録候補を地方自治体から公募したことである。これにより全国の地方自治体から24の登録候補の応募があった。善光寺は、長野県知事・長野市長の連名で「善光寺―古代から続く浄土信仰の霊地」と題して応募された。24の内、とりえず4物件が暫定リストに登録された。今回、善光寺は残念ながら暫定リスト登録にならなかった。しかし、地方自治体から応募のあった24の

内容を検討すると、善光寺は24のなかで上位に位置していると思われる。

②伝統的建造物群保存予定地区候補として、長野市教育委員会が2005年から実施している、善光寺とその宿坊群および仲見世等の本格的な調査が進み効果をあげていることである。この調査は信州大学の土本俊和教授が担当している。土本俊和教授の精力的な指揮のもとに、大学院生等の作業によって、質量ともに膨大な資料が作成、収集されている。この調査報告書が2007年3月に刊行された。

次に日本の世界文化遺産登録に関係した話題として、島根県の石見銀山がある。

石見銀山は日本では14番目の世界文化遺産として登録されたのだが、登録にいたるまでの間に紆余曲折があった。国際記念物遺跡会議(ICOMOS)は、石見銀山を普遍的価値の説明が明確でない等の理由で世界遺産登録延期を勧告した。しかし、2007年6月に、ニュージーランドで開かれた国際連合教育科学文化機構(UNESCO)の世界遺産会議では、ICOMOSの勧告とは逆に、石見銀山は延期されることなく世界文化遺産として登録されたのだ。この難関を突破した登録の背後には日本のUNESCOに対するこれまでの貢献が有効に働いたのではないと思われる。



「世界語」で発信する。

石見銀山の逆転登録ということを初めて経験した日本にあって、世界遺産関係者の間には多少の動揺があるかもしれない。しかし、そんなことに善光寺の関係者はヘコタレてはいけない。善光寺の世界文化遺産としての普遍的価値については、善光寺の世界遺産登録をすすめる会のニュースレターに、建築家宮本忠長氏・行政家池田宗兵衛氏・都市計画家若林時郎氏・地理学者市川健夫氏の先輩方々がそれぞれ専門の立場からすでに記されている。今ここに私がつけ加えることはほとんど見当たらない。

善光寺は普遍的価値を持っている。その価値を世界の人々に訴えよう。それには世界の人々に通じる言葉、すなわち「世界語」で発信する必要がある。日本人だけにしか通じない言葉や内容ではダメなのである。言い換えれば「世界語」で話しかける物件こそが、世界の人々に通じる普遍的価値があるのだ。「世界語」は子どもにもわかる絵本のような言葉である。それでは世界遺産暫定リスト記載候補として、善光寺を「世界語」でどう発信しどう訴えるか、これには担当事務局サイドの大いなる勉強と工夫、それに多少のテクニックが必要である。ここで私の考える多少のテクニックを披露しよう。

世界遺産の核心となる範囲

「世界語」で明確に語りかける物件が「世界遺産の核心」になり得る。明確に語りかけない部分は贅肉部分とみなそう。まずは、試行錯誤をしながら贅肉とみられる部分を思い切って削りとり、核心部分を明確にしていこう。そうすることによって、核心に相応しい範囲が現れてくる。核心部分は美しくなければならない。贅肉部分は、将来的には核心となる可能性がないではないが、現在・近い将来・遠い将来にどうするかどうなるかを考えながら、取り敢えずはバックグラウンドとなる要素として進めよう。世界遺産のチャンスだからといって、ただ様々の物件を闇雲に入れば良いのではない。「世界語」で語れない部分はむしろマイナス要素にすらなってしまう。

現在の善光寺は、長野市という都市の核心に位置する大寺院である。長野市中心街は、善光寺伽藍、本堂・山門・仁王門の中心軸に一致して都市計画された。伽藍軸は南下して門前からは「中央通り」になり、そこに門前町が形成された。さらにJR長野駅の西側を通り、ここから道路は狭くなるが犀川まで達していた。また、善光寺に四方八方から通じる街道は「善光寺街道」と称されている。これら善光寺街道を世界遺産の範囲にしたらどうかという話があるようだ。しかし、遠い将来のことを別として、今すぐ範囲にできる可能性は少ない。範囲にするからには、文化財の面からそれに指定等の必要な手続きが必要である。善光寺周辺の旧善光寺街道は、現在すでに市街地化しており、かつての善光寺街道の面影を伝え保存しているところはほとんどない。この点、山中の熊野古道の場合とは大きく異なっている。善光寺背後の裏山の往生寺、五輪平、雲上殿などは善光寺と深い関わりがあるが、善光寺街道と同様ことが言える。

善光寺は女人往生の霊驗あらたな寺院であり、中世以降は、都市の大寺院として、老若男女を問わず昼夜を問わず参詣者に開放されて

いる。それが近世の善光寺伽藍にも本堂の建築形態にも眼にみえる形であらわれている。この点は善光寺とその本堂が有している最も特徴的な点であり、「世界語」で語り書くのに有利な点である。

現在の善光寺伽藍は、回廊や築地塀などによって囲まれていない。その本堂は撞木造といわれる大規模な木造仏堂であって、正面に三角形の妻をみる。平面形は縦長で、前方から外陣・内陣・内内陣に分かれる。このうち内陣までは庶民である参拝者が出入りできる。本堂で

庶民が占用できる面積とその比率は、日本の仏堂中で最も大きい。奈良東大寺金堂(大仏殿)はもともと全体が仏像の占用空間であって、人間のための空間ではない。

このように昼夜を問わず庶民に開放され、奥行が長く人間が占有する大きな面積を有する





宮澤 智士(みやざわ さとし)

1937年長野県川中島生まれ。
修復建築家・建築史家 一級建築士

東京大学大学院数物系研究科博士課程中退。工学博士
大阪市大工学部助手・奈良国立文化財研究所研究員室長・文化庁建造物課長・
長岡造形大学教授を経て、現在 長岡造形大学名誉教授。
建築修復学会代表
マルコポーロ賞、日本建築学会賞、環境・省エネルギー機構理事長賞受賞